

美術館・図書館整備&現施設を増改築・事業費8億~10億円

市街地の集客効果につながりますか！& 公会堂の二の舞いになりませんか！



美術館は、市民ギャラリーとして設立された。全国展などの企画に展示室は狭隘、駐車場も不足！

美術館の改築面積は、約75㎡。この設計委託料に2500万円。改築面積に展示室の面積は含まれていない。改築面積に比べて多額の設計委託料と改築面積に展示室が対象とされていない増改築事業に、どのような投資効果が期待できるのか。施設の、利用計画が課題。

美術館の増改築 二億四千万円！

美術館・図書館の「整備」という、言葉に異論は無い。しかし、市長の「増改築計画」は、市民の目線と合致した施策であらうか！



竣工33年経過した現施設。新館の併設は、将来(新旧の維持)の施設管理に禍根を残す！

図書館の増改築 五億二千万円！

図書館の増改築事業は、現施設の耐震補強と現施設に併設して1000㎡増やす。バリアフリーの整備、蔵書数33万冊を目標。事業費は、設計委託料に2900万円、本体工事に4億8千万円。この他に、旧二中校舎の解体に4200万円、広場の「人工滝」を壊す費用など環境整備事業費が高む。費用対効果が見られない。

事業費八億円から十億円の投資は、図書館一施設に例えれば、現面積の二倍余の新しい図書館が造れる。現況に陥れば将来描けず。



〈課題〉旧庁舎の構造、間仕切りが多く展示室が狭い。建物の劣化、資料保管が課題。

山陰歴史館の整備
何億円かけますか？
築80年、建物管理に莫大なエネルギーをかけますか。効果の期待度は・・・！

近未来都市に夢を！
財政の危機管理薄い
既存の施設への影に、躊躇せず、新施設をめざすこと。投資効果と将来の財政負担の軽減を考えれば、新施設の方に「利点」が多い。都市の活性化と財政再建は、既存の殻から脱け出し、汗を流す勇気と決断力が必要。「守旧派」に、未来無し



一院クラブ
遠藤とおる
(市議会議員)

湊山球場地の再活用英知を！

鳥大医学との供用 > 史跡追加指定か

「野球のメッカ」歴史を刻む湊山球場。一部に民間の土地を抱えるが、市街地活性化の再活用で揺れている。



湊山球場地は、故人の寄贈にはじまり、故人の遺志を汲んで野球場が建設された。球場地の再活用は、この歴史の由来を活かして、将来の「まちづくり」を、大局的視点から描くことである。鳥大医学部との、「共存共栄」は、悠久の課題である。城山を背景に、「新都市ゾーン」の形成が活路となる。史跡公園の追加指定は、土地利用に規制がかかる。「追加指定」を止めても、既存の城跡は変わらない。城跡の、遺構が無い土地買収に、税の投入は無駄遣い。

近未来都市米子は、文化創造都市をめざし、郷土のアーティストらの英知を募ることにある！